

卒 業 論 文 の 手 引

2 0 1 5（平成27） 年度

東 京 大 学 理 学 部 情 報 科 学 科

卒業論文は、論文を書くための基礎的な能力を養うと共に、大学における4年間の成果のまとめとなる。一般的に論文はオリジナリティが重視されるが、卒業論文ではオリジナルな論文を書くための訓練として、与えられたあるいは自分で考えたテーマをきっちりと論文にまとめることが重要である。小さなテーマでも研究成果を他人に読んでもらうために論文にまとめるのは決してやさしくない。研究者への第一歩として研究室に十分な時間出席して、指導教員から指導を受け、より良い卒業論文を書くことを望む。

- ・使用言語：英語
- ・構成要素：卒業論文の構成は以下の様な順序となる。

英語

- ・表紙
- ・Abstract、論文要旨
- ・Acknowledgments（謝辞）
- ・Contents（目次）
- ・Introduction（はじめに）
- ：
- ・Conclusion（結論）
- ・References（参考文献）
- ・(Appendix)（付録）

本文

- ・表紙の形式：

Senior Thesis Title Centred - If necessary, Subtitle - 卒業論文題目を中央に 必要ならば副題を付ける
by
Kei Hiraki 平木 敬
A Senior Thesis 卒業論文
Submitted to the Department of Information Science on February 2, 2016 in partial fulfilment of the requirements for the Degree of Bachelor of Science
Thesis Supervisor: Hidetosi Takahashi 高橋秀俊 Title: Professor of Information Science

卒業論文題目：

←英語

原則、全大文字ではなく、キャピタライズ（冠詞、前置詞、等位接続を除き語頭を大文字）にすること。

←日本語

著者名：

←英語

←日本語

表紙の日付：

←論文提出日を記入

- ・卒業論文題目：短めで無駄がないのが望ましい。長くなる場合には、副題をつけると良い。
原則、全大文字ではなく、キャピタライズ（冠詞、前置詞、等位接続詞を除き語頭を大文字に）すること。

- 論文の体裁：本文テキストは11ポイント程度の文字で出力する。本文はダブルスペースで印刷し、適切な余白を上下左右に付けること。体裁に関しては、標準フォーマットをTeXで別途示す。論文提出はPDFフォーマットを使うこと。体裁が類似するならば、任意のテキスト作成ソフトウェアを用いて良い。
- 論文枚数：A4用紙を縦に用いる。論文本文の語数は原則として**5000語**以上とする。
- Abstract、論文要旨：論文の内容を簡潔に英文と和文の両方を図のように併記し、表紙とともにPDFファイルとして提出期限までに指定されたWebページにアップロードする。
- 論文の提出方法：審査用論文は、提出期限までにPDFファイルを指定されたWebページにアップロードする。提出期限後は、論文審査まで論文を修正することはできない。(提出期限までは修正稿をアップロードできるので、早めにアップロードすること。)
- 保存用論文の提出方法：論文は論文審査後、審査委員からの意見に基づき修正後、表紙および、背表紙に論文題目、氏名を明記し、左綴じ片面印刷の簡易製本2部を事務室に提出のこと。提出する論文の印刷には長期保存に耐える中性紙を使用すること。(簡易製本道具は事務室で配布、1部は図書室にて永久保存、1部は研究室保管用)。

Abstract ----- ----- 論文要旨 ----- -----
--

- ページ番号：本文、謝辞、参考文献に通してページ番号を用紙のフッター部（地）の中央に付けていく。

1

- 謝辞：できるだけ簡潔に指導教員など論文を書くうえでお世話になった人に感謝を表する。
- 論文の内容および構成：論文の書き方には様々なものがあるが
 - 従来知見を明らかにする。
 - その中から問題点を示す。
 - 解決する新しいアイデアを提示する。
 - 計算や実験でその有効性を示す。または理論を示し証明する。
 - 関連研究との対比を行う。
 - 検討とまとめを行なう。
 という流れが一般的である。ただ情報科学分野では他の分野と違いシステムのインプリメンテーションに関する論文も少なくない。この場合でもただ作ったことの報告や製作日記でなく、どのような問題点を解決するために、どんな新しい試みをしたかという見地から書くことが必要である。付録1に電子情報通信学会の論文構成の参考例をつける。また刊行されている論文の構成を参考にされたい。
- 参考文献：論文内容に直接関係のある重要な論文、書籍を挙げる。卒業論文では、少なくとも1ページ分以上参考文献を本文中で引用すること。表記方法は情報処理学会の方式に準ずる。付録2を参照のこと。
- 付録：論文本文中の中で取り上げると必要以上に詳細になる計算、証明、実験装置の説明等がある場合には付録として最後にもってくるのが良い。
- 論文を書く上での参考文献：情報科学分野に関するものではないが参考になる。

<ul style="list-style-type: none"> これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 酒井 聡樹、共立出版 どう書くか—理科系のための論文作法 杉原 厚吉、共立出版 理科系の作文技術 木下是雄、中公新書 	
---	--

論文執筆、提出上の注意

- (1) 論文は英語で執筆する。論文では文法誤りが嫌われるので、よく点検すること。
- (2) 論文には、少なくとも Introduction, 詳細の内容、Related Work、Conclusion と、適切な量の References があること。いずれかの部分が欠けるばあいには、審査を行わない。
- (3) 論文の分量は、原則として本文（Introduction から Conclusion まで）が **5000** 語以上あること。それを下回る場合には、原則として審査を行わない。
- (4) 論文は、提出者がすべての部分を執筆すること。提出者以外が校訂を手伝うことは差し支えない。
- (5) アカデミックインテグリティ
 - 1) アイディアの盗用、実験結果の盗用、実験結果のねつ造、改竄をしてはいけない。
 - 2) 文章、画像を含め、他の論文、解説などの出版物、Web ページから文章、画像の一部あるいは全てをコピーしてはいけない。
 - 3) 文章、画像などを引用する場合は、必要最低限に留めること。引用する場合は、出典を明記し LaTeX の quotation コマンドを使う等して、当該部分が引用であることを明確にすること。これは、論文として、著者の主張による文章なのか人の主張なのかを明確にするために必要だからである。
 - 4) パラフレーズの禁止。他の著作物から文章をコピーし、一部の単語を置き換えて使用するようなことをしてはいけない。
 - 5) 既存研究の紹介や比較するときにおいても、自分の文章で他の研究を紹介すること。
- (6) 当たり前のことであるが、論文提出締切時間は厳守すること。Web を用いた論文提出システムは、論文提出時間に閉じられる。
- (7) 提出された論文は、剽窃検知システムにかけることがある。